

A カガシラ



湿地に生える高さ5～15cmほどの小型の草です。2cmくらいの短く細長い葉をつけます。うす黄緑色の目立たない花をつけ、7～10月に熟します。

A キンラン



明るい林の中や林の縁の地面に生える高さ30～70cmのランの仲間です。冬には葉を落とします。5月ごろに黄色い花をつけます。

A サギソウ



日当たりのよい湿地に生える高さ15～40cmのランの仲間です。8月に先端近くに3cmくらいの鳥のサギに似た白い美しい花を1～3輪つけます。

A ミズトンボ



日当たりのよい湿地に生える高さ40～80cmのランの仲間です。7～9月に1cmくらいの特徴的な形のうす黄緑色の花をたくさんつけます。

A インシュウムヨウラン



林の中の日陰に生える高さ20～30cmの葉をつけない腐生(自分で栄養を作らない)ランの仲間です。5～6月に1.5cmくらいのうす茶色の花を数個つけます。

A フウラン



木の幹や岩の上に生えるランの仲間です。茎は短く立ち、長さ5～10cmほどの細く硬い葉をすきまなくつけます。6～7月に香りのよい白い花をつけます。

A コバノトンボソウ



日当たりのよい湿地に生える高さ20～40cmのランの仲間です。葉はふつう1枚で、6～8月にうす黄緑色の小さく目立たない花を数個つけます。

A トキソウ



日当たりのよい湿地に生えるランの仲間です。葉は茎に1枚だけつきます。5～6月に20cmくらいの花茎をのぼし、先端にピンク色の花をつけます。

B ミズスギ



日当たりのよい水田わきの湿った所に生える、つる性のシダ植物。茎は地面を長くはい、所々で直立した茎を出し、その先に胞子がつまった穂を1～2個つけます。

B ヒメミズワラビ



水田、水路、ため池などに生えるシダ植物です。胞子をつける葉は裏側にそり返って棒のようになり、その他の葉はいろいろな大きさや形をしています。

B イチイガシ



山地に生える高さ10～20mの木です。葉の裏に茶色っぽい毛が生えています。4～5月に雄花と雌花を別につけます。果実(ドングリ)は秋に熟します。

B カワラナデシコ



日当たりのよい草地や河原に生えます。高さ30～80cmで、7～10月に5枚のうすピンク色の花びらを持つ花をつけます。秋の七草のひとつです。

B ヨタカ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、山地の森林や草地で、夜に飛びながら大きな口で虫を捕まえます。昼間は木の枝そっくりの色で、じっととまって休みます。

B オグロシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。水田や湿地、海岸などで虫やミミズなどを食べ、羽を休めます。春は頭から胸が赤茶色ですが、秋にはうすい色になります。

B アカアシシギ



春と秋、旅の途中に日本に立ち寄り渡り鳥です。海辺や湿地で虫やゴカイなどの動物を食べます。名前のとおり、赤い足とくちばしが特徴です。

B タカブシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。水田や湿地、川などで見られます。こげ茶色の背中にはタカの羽のような細かい斑点があり、「鷹斑」の名がつけました。

B キアシシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。海辺や川、水田などで見られます。胸の細かいしま模様と黄色い足が特徴で、シギの仲間の中では目にする事の多い鳥です。

B キョウジョシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥で、海辺や川で見られます。茶色と黒のまだら模様の背中が京都の女性の着物にたとえられ、「京女」の名がつけました。

B オジロトウネン



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥で、冬を日本で過ごすものもいます。浅い水辺や泥地で虫などを食べます。よく似たトウネンは足が黒色で、この種は黄緑色です。

B ハマシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。冬を日本で過ごすものもいます。海辺などで虫やゴカイを食べます。群れていることが多く、大群が一斉に飛び様子は壮観です。

B セイタカシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。黒と白の体に長く赤い足をもつ、スマートな鳥です。水田や湿地でくちばしを水にさしこみながら、虫などの食べ物を探します。

B スグロカモメ



冬を日本で過ごす渡り鳥で、海辺に多くのカモメの仲間。夏には頭が黒くなるので「頭黒」の名がありますが、日本にいる冬には白い頭をしています。

B ハチクマ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、山地の森林にすむタカの仲間です。小さな動物を食べますが、特に虫のハチが好きなことから、「ハチクマ」の名前がつけました。

B サシバ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、里山の森林で子育てをするタカの仲間です。山の近くの水田で、カエルやヘビなどを捕まえます。「ピックイー」と鳴きます。

B フクロウ



巣になる穴のある大きな木の生えた、山地の森林にすんでいます。昼間は休んで夜に活動し、ネズミなどを捕まえます。「ゴロツホ、ホッホ」と鳴きます。

B ハヤブサ



山地や海岸、川、農耕地など開けた場所で見られます。飛んでいる鳥を高いところから急降下して捕まえます。山地や海岸の崖に巣を作って子育てをします。

B オオヨシキリ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、背の高い草の生える川や池の周りの草地などで見られます。初夏から夏、大きな声で「ギョギョシ、ギョギョシ」とよく鳴きます。

B キビタキ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、山地から人里の木のよく茂った森で見られます。オスは黒い羽に黄色の胸があざやかです。メスは目立たない色をしています。

要 ササゴイ



夏を日本で過ごす渡り鳥。羽のササの葉模様から「ササゴイ」の名がつけました。川や池でじっと動かさずねらいを定め、魚やカエルを捕まえます。

要 ヘラサギ



冬を日本で過ごす渡り鳥で、トキの間です。海辺や湿地、池などで、ヘラのように先が広がったくちばしでエサをとったり、首を背中に乗せて休んだりします。

要 イカルチドリ



川の中の石の多い河原や中州などで見られる小鳥です。石によく似た模様の卵を産み、生まれたヒナも石のような色をしています。「ピオ」などと鳴きます。

要 オオハシシギ



春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、冬を日本で過ごすものもいます。池や水田、海岸などで、浅い水辺を歩いてくちばしを泥の中にさしこみ、エサを探します。

要 コアオアシシギ



春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、冬を日本で過ごすものもいます。長い足で水田や湿地、海辺などの浅い水辺を歩き回り、虫や貝などのエサを探します。

要 ソリハシシギ



春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、海辺などで見られます。オレンジ色の足と、上にそったくちばしが特徴です。小走りに動き回り、特にカニをよく食べます。

要 オオアジサシ



日本の南の島で子育てをする鳥で、明石市で見られることはそれほど多くありません。くちばしが黄色く背中が灰色で、頭の黒い羽は長くボサボサしています。

要 アジサシ



春と秋の渡りの時期に、海の上や海辺で見られます。春には海の上を大群で飛んで、北へ向かいます。秋には海辺で羽を休め、南への長旅に備えます。

A スズサイコ



日当たりのよい草地に生えます。高さ40～100cmで細長い葉をつけます。夏にうす茶色の花をつけ、夜に開き、日が当たると閉じます。秋に細長い袋のような実をつけます。

A ゴマクサ



日当たりのよい湿地や用水路わきに生えます。高さ30cmほどで、葉は細長い形をしています。8～9月に葉のつけねに黄色い花を1つつけます。

A ノタヌキモ



ため池に生える水草です。茎はよく枝分かれし、長いと1.5mにもなります。花の茎は水の上に出て、その上の方に黄色い花を数個つけます。

A ミカワタヌキモ



ため池や湿地に生える食虫植物です。細い茎をからめて水中に浮かぶが、湿地に集まって生えます。8～9月に茎を水の上に伸ばし、黄色い花を数個つけます。

A ムラサキミミカキグサ



栄養分の少ない湿地に生える食虫植物です。地中の葉と地上の葉で形が違います。8～9月に10cmほどの茎を伸ばし、小さな紫色の花をつけます。

A オグルマ



湿地や休耕地、川岸などに生えます。高さ30～50cmで、地面の下の茎を伸ばして広がります。8～10月に3cmほどの黄色い花をつけます。

A ミズオオバコ



水田やため池、水路に生える水草です。オオバコに似た葉をつけることが名前の由来です。8～10月に白やうす桃色の花びら3枚の花をつけます。

A ノカンゾウ



水田の畦や野原に生えます。高さ70～90cmになります。幅1cmくらいの細長い葉をつけ、7～8月にオレンジ色の大きな花をつけます。

A モロコシガヤ



明るい草原に生えます。高さ50～100cmで、葉は長さ20～50cm、幅5～10mmの細長い形です。9～11月に茶色の花をつけます。

A センダイスゲ



明るい林の地面に生えます。高さ10～30cmで、茎が地面を長くはいます。8～10月に、上の方が雄花、下の方が雌花である花をつけ、その後実がなります。

A ヌマガヤツリ



湿地、河川敷など、増水の影響を受ける所に生え、高さ30～120cmになります。長い茎から花をつける枝を3～5本出し、茶色の花穂をつけ、秋に果実が熟します。

A ネビキグサ



海岸近くの湿地や池の畔に集まって生えます。高さ60～100cmで、茎は楕円形です。初夏に茶色い目立たない花をつけます。別名をアンペライといいます。